

令和3年度 備前市外部評価報告書

《令和2年度実績評価分》

令和4年3月

備前市行政評価市民委員会

1 行政評価市民委員会

(1) 委員会設置（運営）の目的

備前市まちづくり基本条例で要請されている外部評価を実施することにより、行政評価（内部評価）の客観性及び透明性を確保するとともに、施策や事業の必要性、成果等について検討や検証を行うことで、市民の視点に立った効率的かつ効果的な行政経営を推進する。

(2) 役割

次に掲げる事項について調査および検討を行い、これに係る意見または提案を市長に報告する。

- ① 市が実施した施策評価および事務事業評価の結果
- ② 市の行政評価システムの改善

(3) 構成委員（7人以内）

令和2年8月1日改選

No.	氏名（ふりがな） 敬称略	区分	職業・所属等	備考
1	草加 己良（くさか みよし）	市民公募	無職	
2	原田 正志（はらだ ただし）	市民公募	スクールバス運転員	
3	船橋 美可（ふなはし みよし）	市民公募	備前市観光協会事務局長	
4	近藤 美典（こんどう よしのり）	市民公募	団体職員	
5	西崎 有紀子（にしざき ゆきこ）	市民公募	放課後児童支援員	
6	佐藤 洋一郎（さとう よういちろう）	学識経験	岡山県立大学 教授	

(4) 委員会活動経過

回	日時	具体的活動内容
第1回委員会	令和3年 9月27日 14:00～15:00	○委員顔合わせ・オリエンテーション ○評価対象「施策」の選定（6施策）
第2回委員会	令和3年10月27日 14:00～16:00	《施策1～2》 ・評価対象施策所管課との質疑応答 ・市民評価シート作成及び採点
第3回委員会	令和3年11月17日 14:00～16:00	《施策3～4》 ・評価対象施策所管課との質疑応答 ・市民評価シート作成及び採点
第4回委員会	令和3年12月22日 14:00～16:00	《施策5～6》 ・評価対象施策所管課との質疑応答 ・市民評価シート作成及び採点

2 外部評価（委員会評価）の評価対象施策

評価対象とする施策については、テーマを絞らず、各委員が「評価したい施策」を選出することとして協議を行い、以下の6施策を選定した。

No.	コード	施策名	所管課
①	10	歴史文化の活用と伝統文化の継承	文化振興課
②	28	賑わいをもたらす観光の振興	文化観光課
③	04	子育て不安の解消	子育て支援課
④	21	高齢者への福祉の充実	介護福祉課・地域福祉連携課・日生総合支所
⑤	06	生涯学習の機会充実	社会教育課
⑥	36	地域情報化の推進	デジタル推進課

3 評価採点結果

(1) 評価5項目の点数化

評価の視点を5項目（成果指標の妥当性、事業構成の適当性、施策の有効性、進行年度の取組内容、翌年度の取組目標）とし、それぞれの視点ごとに4点満点で評価した。

【委員の評価平均点】

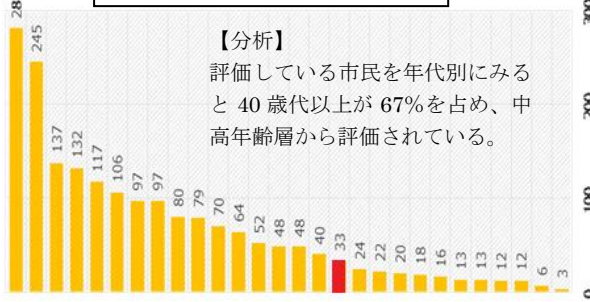
評価実施日	R3. 10. 27		R3. 11. 17		R3. 12. 22	
評価視点	歴史文化の活用と伝統文化の継承	賑わいをもたらす観光の振興	子育て不安の解消	高齢者への福祉の充実	生涯学習の機会充実	地域情報化の推進
成果指標の妥当性	2.4	2.6	2.7	2.5	1.8	2.6
事業構成の適当性	2.6	2.4	2.7	2.7	2.8	2.8
施策の有効性	2.4	2.6	2.7	2.2	2.6	2.8
進行年度の取組内容	2.2	2.4	2.5	2.5	2.8	3.0
翌年度の取組目標	2.2	2.4	2.7	2.7	2.8	2.8
合計(100点満点換算)	59.0	62.0	65.8	62.5	64.0	70.0

(2) 各施策の評価結果とその対応

① 歴史文化の活用と伝統文化の継承 <<評価：59.0点>>

市民意識調査結果

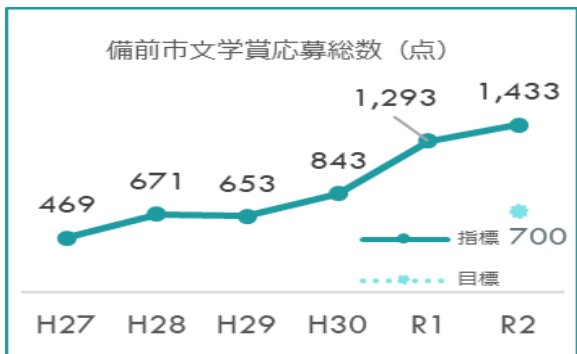
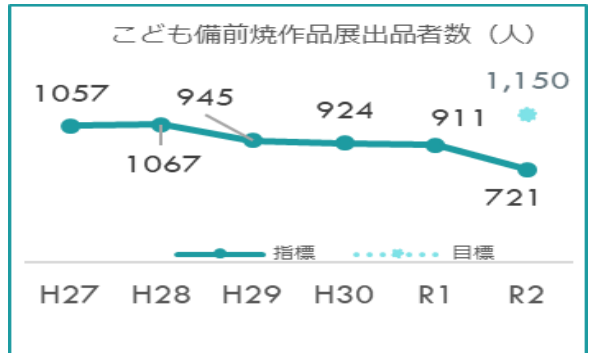
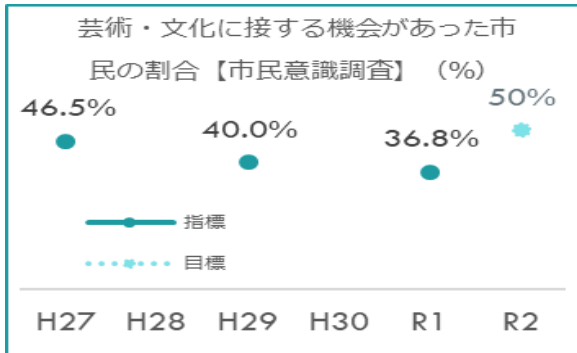
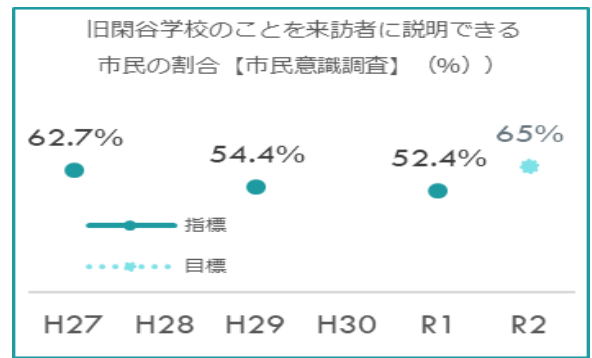
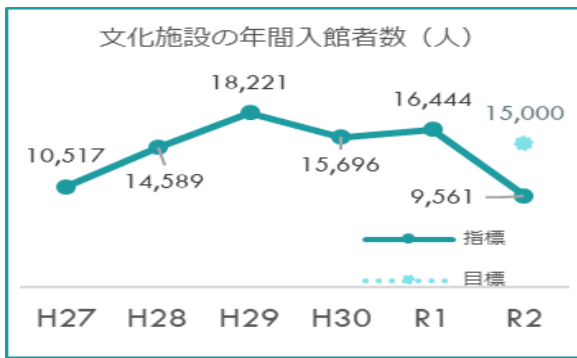
評価:17位/28施策中



重点化:26位/28施策中



施策成果指標



成果指標の妥当性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2	1		3
市民委員意見	成果指標の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・文化施設の入館者数、こども備前焼作品展出品者数について、市内の人を増やしたいのか、市外の人を増やしたいのか、またそれを達成するための施策は何なのかという整理が必要。 ・ここ数年、成果指標の基本目標が同じであり、妥当性・必要性が表現されていない。 					
	目標値の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度、実態に即していると考え。 ・こども備前焼作品展及び文学賞への出品数の目標値を上げてよいのではないかと。 					
事業構成の適当性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2	2		3
市民委員意見	事業は施策の成果を上げるのに適しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・全体的な方向性（幹）に対して枝が事業（取組）となる。現在の評価では一つ一つは理解できるが、全体として何の役にたっているのかが見えづらく、評価がしにくい。 ・事業については市民向け、外向けのメリハリをつけて実施することで効果が出やすく、評価もしやすくなる考える。 ・事業に関してはとてもよく取り組まれていると感じる。 ・新しく取り組む姿勢が感じられない。 ・「まちづくり」のビジョンが具体性に欠ける。 ・市民との連携が必要。 ・図書館との連携が必要。（郷土の偉人に関する本などを配置し、市民の理解を深める） ・歴史文化の活用と伝統文化の継承を実現させるための事業として、事務事業及び各関連部門との連携がない。文化財などの活用を今後どのようにするか、具体的な考えを示すべきである。 					
施策の有効性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2	1		3
市民委員意見	目標値の設定は妥当か	特に意見なし					
	指標分析は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・各文化施設の機能統合ビジョンが見えず、説得力に欠ける。 ・この指標分析によって成果があるのか、ないのか。また、改善、見直しが必要なのかが分かりにくい。市民や観光客に対して積極的に活用、啓発を推進している対策がない。 					
	課題解決に向けての取組は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・できることから取り組まれていると思う。 					

進行年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	1	1		3
市民委員意見	課題を把握しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・とてもよく分析し、把握されている。 ・よくできているが、少し不足していると思う。 ・取組内容の課題が把握されていない。判断理由や取組内容が抽象的で判断できない。 					
	課題解決に向けての取組は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・できることから取り組まれていると思う。 					
翌年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	1	2		2
市民委員意見	今後の取組は総合計画の目標とする姿に向かっているか	<ul style="list-style-type: none"> ・向かっている。 ・備前焼、旧閑谷学校だけでなく、各種文化財の調査活用・啓発事業が必要。 ・問題の先送りが多いのではないか。 					
	取組は市民ニーズをとらえているか	<ul style="list-style-type: none"> ・とらえていると思う。 ・前年の踏襲でなく、市民目線に立ち、目標や目的を設定し、本市の歴史・伝統・文化を次世代へ継承する仕組みづくりを進めてほしい。 					

市民委員から見た課題

- ・図書館機能との連携がほとんど見えてこない。
- ・関係文化施設には多額の費用がかかっているが入館者数が少ない。備前焼ミュージアムの建て替えを機に施設の集約や統廃合が必要。
- ・旧閑谷学校についてPRが不足している。ホームページへの掲載、公民館等へのチラシ配置では不十分と考えるため、その他効果的なPR方法の検討が必要。
- ・埋蔵文化財管理センターでワークショップを受けたが素晴らしい場所であることを知った。ホームページやSNSを活用したPRを行っているようだが、もっと効率的で発信力のある方法の検討が必要。
- ・埋蔵文化財管理センターの企画内容は良く考えられているが、参加者が絞られる傾向にある。バックヤードツアーなど市民目線の企画もあれば、子どもも大人も楽しめるのではないか。
- ・歴史文化の継承、保存が待ったなしとなっている。高齢化と後継者育成の不足が課題。
- ・情報発信は重要。ターゲットによってPRの方法が異なる時代。ターゲットを明確にし、PR方法を変える必要がある。また、記念誌等においては、作ることが目的とならないよう、作成目的を明確にし、その目的にあった配置場所やPR方法を検討すべき。

長期的に取り組むべき課題

- ・子ども備前焼作品展について、市内で参加がない学校がある。市内の子どもたちが、将来、備前焼について説明ができ、PRできるよう全市的に取り組むべき。
- ・備前焼の後継者（作家）の動向も把握する必要があるのではないか。カリスマ的な作家を発掘し、市を挙げてPRするなどを検討してみてもどうか。
- ・「まちづくりに活かす」という具体的なビジョンの作成。
- ・目標設定、目的設定。

委員会後の担当課対応

- こども備前焼作品展について、吉永エリアの小中学校からの参加がない。備前焼を理解し、PRができるよう全市的に取り組んではどうか。
⇒全市的な取り組みとなるよう依頼していきます。
- ワークショップなどのPR方法としてホームページやSNSを活用しているが、もっと効率的で発信力のある方法はないのか。
⇒もっと広く発信するためにPR手段について検討していきます。
- 図書館機能との連携がほとんど見えてこない。
⇒備前市ゆかりの人物等についての顕彰や文化財の紹介など様々な形の連携を考えていきたいと思います。
- 歴史文化の活用と伝統文化の継承を実現させるための事業として、事務事業及び各関連部門との連携がない。文化財などの活用を今後どのようにするか、具体的な考えを示すべきである。
⇒令和3年度に作成いたします備前市文化財保存活用計画に基づき地域の特徴を生かした地域振興や文化財の継承に繋げていくとともに、各関連部門との連携や文化施設の活用も考えていきたいと思います
- 問題の先送りが多いのではないか。
⇒令和3年度に作成いたします備前市文化財保存活用計画に基づき、各種文化財の調査や活用を計画的に進めていきます。

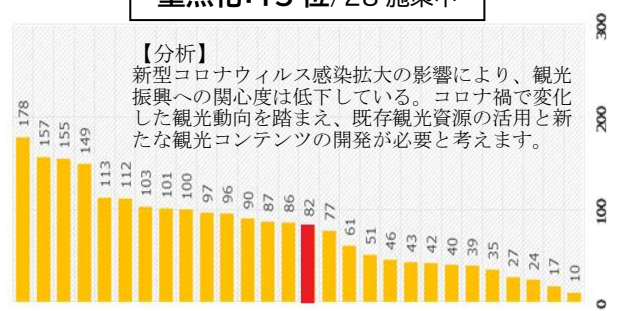
② 賑わいをもたらす観光の振興 ≪評価：62.0点≫

市民意識調査結果

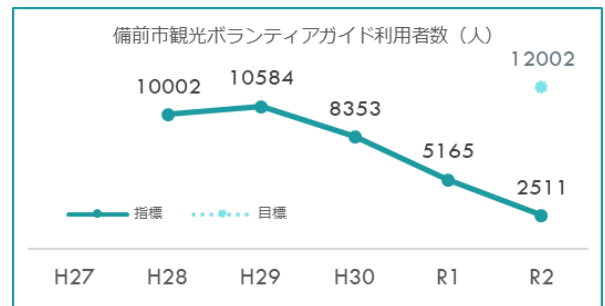
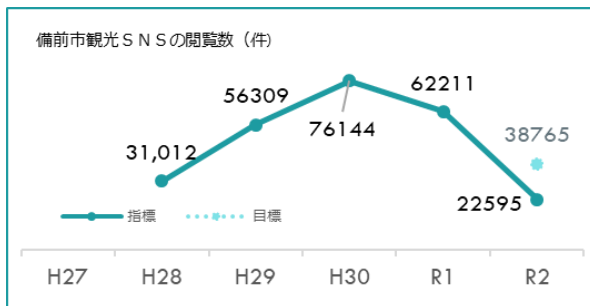
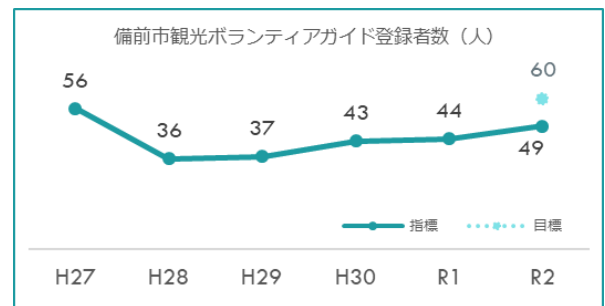
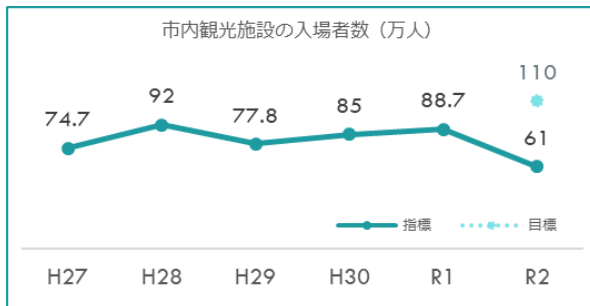
評価:16位/28施策中



重点化:15位/28施策中



施策成果指標



成果指標の妥当性

評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	2	2	3		3
市民委員意見	成果指標の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ボランティアガイドの登録者数は参考とまらないのではないか。 ボランティアガイドの評価は利用者の満足度など、別の指標があるのではないか。 周遊、長期滞在の観光客を増やすために宿泊者数を指標としてはどうか。 					
	目標値の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> 毎年の実績に即した目標値となっている。 					

事業構成の適当性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	2	1	3		3
市民委員意見	事業は施策の成果を上げるのに適しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 事業に関してはとてもよく取り組まれていると感じる。 ・ 新しく取り組む姿勢が感じられない。 ・ 観光振興を図る上で、各種事業構成は妥当である。 ・ 一生懸命取り組まれているのがHPなどから良く分かる。 ・ なぜ、この事業が市で行わなければならないのかの理由を明記する必要がある。 ・ 観光振興は「歴史文化の活用と伝統文化の継承」施策と共通する部分が多い。それぞれの方針があってしかるべきだが、備前市はひとつ。横串は通しやすいと考えるので、もっと連携が必要である。 ・ 事業については、一生懸命に取り組まれている。施策等を正しく評価することで、次につなげて欲しい。 					
施策の有効性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	1	3		3
市民委員意見	目標値の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・ コロナ禍での見通しとして妥当と考える。 					
	指標分析は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・ 妥当である。 					
進行年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	2	1	3		3
市民委員意見	課題を把握しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ アフターコロナの中での課題を捉えていると感じる。 ・ 課題の把握はよくできているが、取組の姿が見えてこない。 ・ 各施設のインバウンドに対応した設備（Wi-Fi等）調査が必要。 					
	課題解決に向けての取組は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・ より具体的な取組みを望む。 ・ 課題解決に向けた協議会等の設置が必要。 ・ ふるさとを自慢、PRできる知識を市民に身につけてもらう手段として広報誌、SNSでの観光情報発信があるが、告知・報告であり、方針と取組がかみ合っていない。 ・ 市民の知識向上については、ボランティアガイド研修、勉強会などの実施が必要。 ・ 観光客のおもてなしを目的に市民に備前市についての知識をつけてもらうには、「〇〇検定」の実施のような、何らかの仕掛が必要と考える。 					
翌年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	1	3		2
市民委員意見	今後の取組は総合計画の目標とする姿に向かっているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ 向かっていると感じる。 					
	取組は市民ニーズをとらえているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ ある程度とらえていると思う。 					

市民委員から見た課題

- ・ボランティアガイドの利用に関して、基本的にFAXでの申し込みとなっているが、利便性向上のため、メールでの申し込みを可能としてはどうか。
- ・伊部駅向かいの三角地（駐車場）をきれいに保ち、観光客を迎えて欲しい。
- ・日生⇒閑谷⇒八塔寺⇒備前焼のルートで観光振興を図って欲しい。
- ・市内事業者等、接遇マナーの向上に市全体で取り組む必要がある。
- ・観光客数はイベント来場者と分けて整理し、分析する必要がある。
- ・個人、少人数の観光客が宿泊できる施設があれば良い。
- ・食、特産品を目当てに来る観光客数を把握、分析してみてもどうか。

長期的に取り組むべき課題

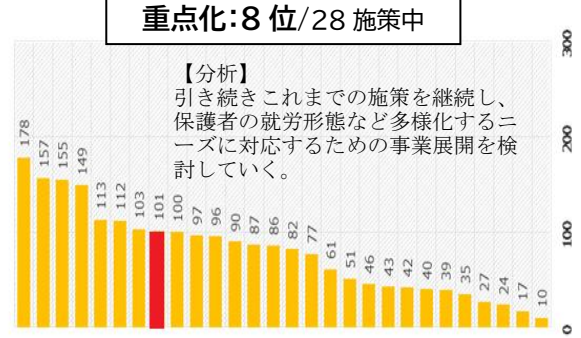
- ・アフターコロナを見据え、より魅力的な観光地としての発信。
- ・市民が自らまちを大切に思えるよう、体験型で知っていく機会があると良いのではないか。
- ・施設数が良くない。今後、多くの観光客の利用が期待できないのであれば、根本的に見直し、廃止の決断が必要。

委員会後の担当課対応

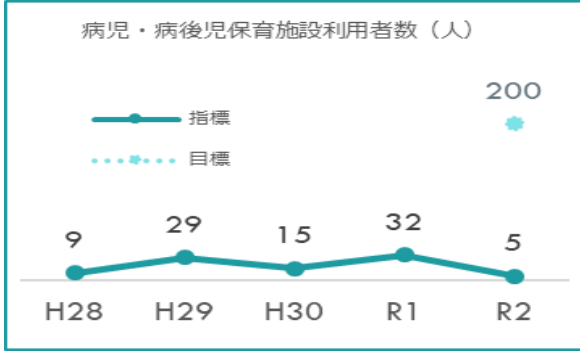
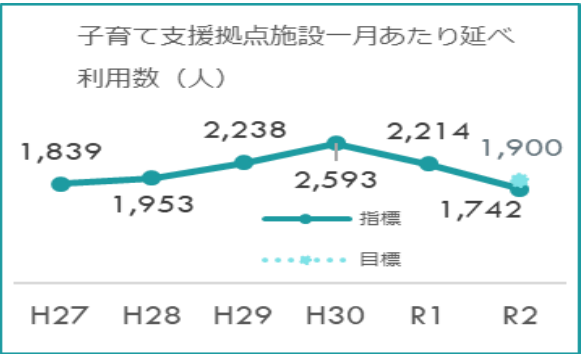
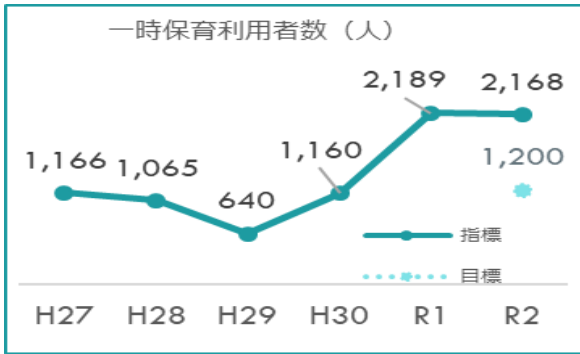
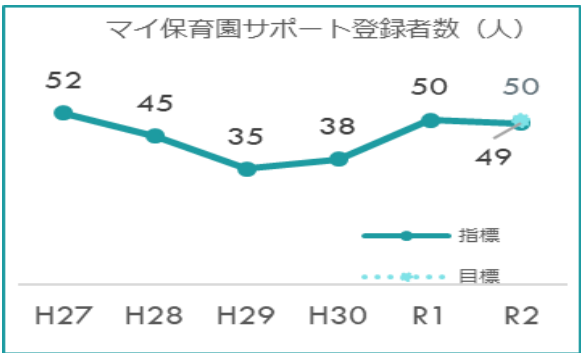
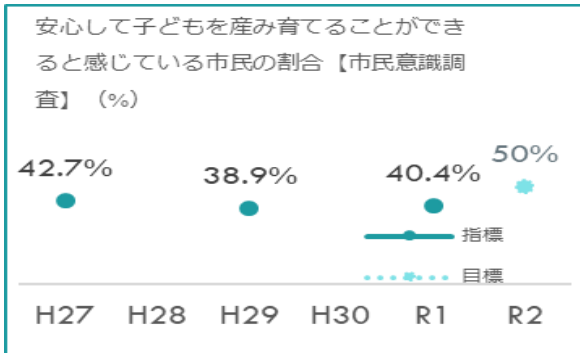
- 市民の知識向上については、ボランティアガイド研修、勉強会などの実施が必要。
⇒市民がまちに誇りを持てるよう、研修会、勉強会の開催を今後検討していきます。
- ボランティアガイド申し込みをメールでの申し込みを可能としてはどうか。
⇒電子申請システムでの活用ができるか、今後検討してまいります。
- 三角地をきれいに保ち、観光客を迎えてほしい。
⇒木の剪定や清掃等を継続して実施し、観光客の満足度を高めていきます。
- 日生⇒閑谷⇒八塔寺⇒備前焼のルートで観光振興を図って欲しい。
⇒観光客に市内を周遊してもらい、滞在時間の延長と満足度の向上に取り組んでいきます。
- 観光客数はイベント来場者と分けて整理し、分析する必要がある。
⇒単発的に実施するイベントの観光客人数と分け、分析に努めるよう検討していきます。
- 個人、少人数の観光客が宿泊できる施設があれば良い。
⇒個人旅行が主になってきているため、そのニーズに答えることができるような宿泊施設の把握と発信に努めてまいります。
- 食、特産品を目当てに来る観光客数を把握、分析してみてもどうか。
⇒観光案内窓口等において、ニーズ調査の方法を検討し把握していきます。

③ 子育て不安の解消 ≪評価：65.8点≫

市民意識調査結果



施策成果指標



成果指標の妥当性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	3	2	3	2
市民委員意見	成果指標の設定は妥当か	・妥当と考える。					
	目標値の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍等で、目標値の見直しが必要ではないか。 ・市民意識調査結果以外の具体的な指標を設けるべきではないか。 ・実績を踏まえた目標となっているのではないか。あくまで目標なので、適切に設定して欲しい。 ・目標設定の根拠が分かりにくい。 ・目標値が低いのではないか。 ・安心して子どもを産み育てることができると感じている市民の割合の目標値50%は適切か。達成は困難だが、行政としては100%を目指すべき。 					
事業構成の妥当性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	3	1	3	3
市民委員意見	事業は施策の成果を上げるのに適しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・適しているように感じる。 ・よく理解されていると思う。 ・成果を上げるために思いつく事業は実施されている。 ・3年後、5年後も変化や改善点を見つけることができるのか。 ・外部委託自体は有効だが、その評価は適切にすべき。 					
施策の有効性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	3	2	3	2
市民委員意見	目標値の設定は妥当か	・設定は妥当である。					
	指標分析は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当な分析である。 ・評価が通り一遍で説得力に欠ける。 ・判断理由になっていないのでは。(具体性がない) 					
進行年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	3	1	3	2
市民委員意見	課題を把握しているか	・把握していると思われる。					
	課題解決に向けての取組は妥当か	・事務事業は前例踏襲で見直し、改善がなされず継続されている事業が多い。					

翌年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	4	3	2	3	1
市民委員意見	今後の取組は総合計画の目標とする姿に向かっているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ある程度は向かっていると思う。 ・向かおうとはしていると思う。成果指標未達成の理由が不明。 					
	取組は市民ニーズをとらえているか	<ul style="list-style-type: none"> ・本当のニーズを捉えて欲しい。 					

市民委員から見た課題

- ・委託先が委託料をどのように使用したかは市民には見えないので、適正に執行されるよう、監査や指導の徹底、強化に努めて欲しい。
- ・子ども食堂について、限られた地域でしか展開されていない。運営していただける団体の募集について、待ちの姿勢ではなく、積極的に足を運ぶべき。
- ・委託、助成事業に対する評価について、委託、助成を実施しているか否かの評価となっていないか。エビデンスを表現すべき。

長期的に取り組むべき課題

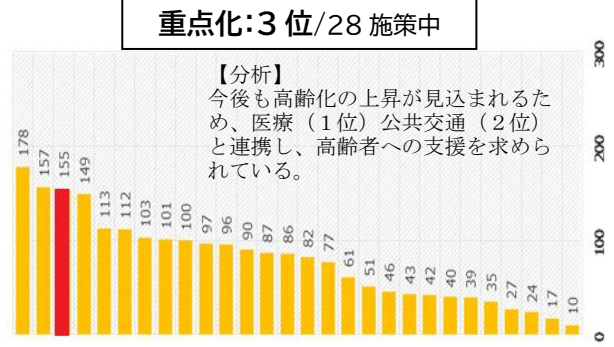
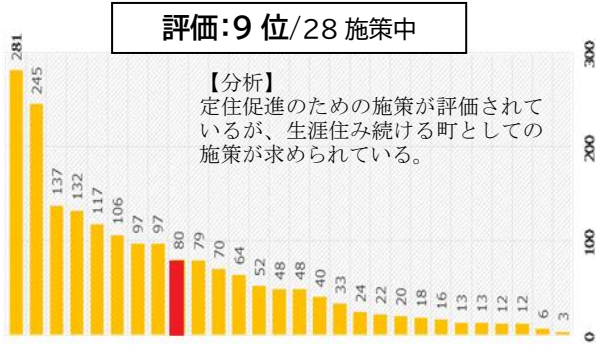
- ・少子化ながら多様化する子育てニーズを大切にしつつも、目指す子育てサポートの形を明確にしていくことを望む。
- ・現実に貧困家庭があることを理解した施策を推し進めて欲しい。
- ・改革が出来ているか。改善も含めて進めて欲しい。
- ・児童相談への対応者（専門職）の育成。

委員会後の担当課対応

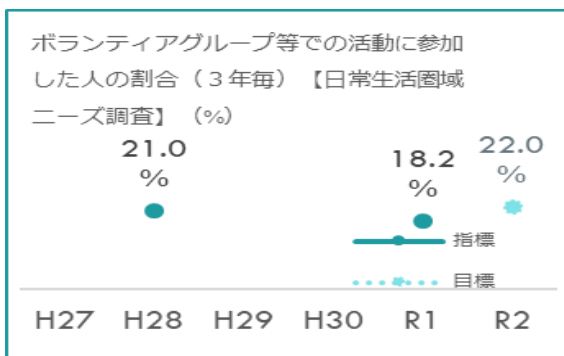
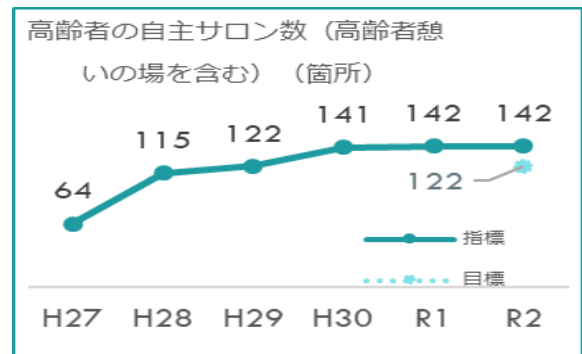
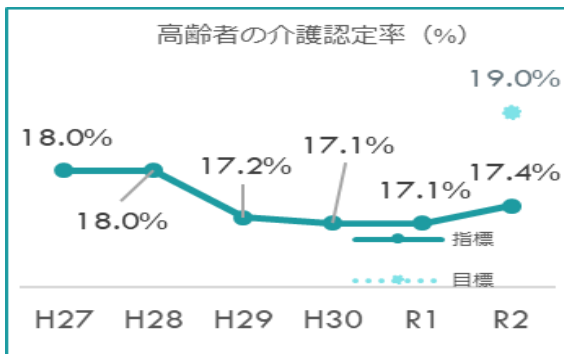
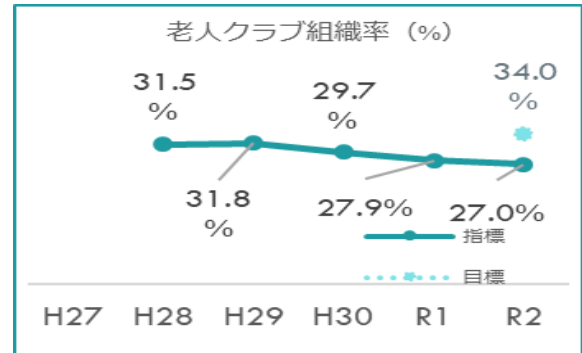
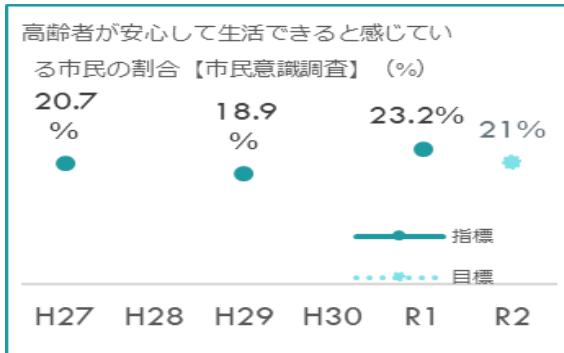
- 委託先が委託料をどのように使用したかは市民には見えないので、適正に執行されるよう、監査や指導の徹底、強化に努めて欲しい。
⇒地域子育て支援拠点事業などの委託先については、定例監査における証憑書類の確認事項や指導事項のマニュアルの徹底などにより、委託料が適正に執行されるよう努めてまいります。
- 現実に貧困家庭があることを理解した施策を推し進めて欲しい。
⇒貧困家庭については、児童の所属先である園・学校との情報連携により、また妊産婦の面談や乳幼児健診の機会を捉えることにより、家庭の把握に努め支援に繋げてまいります。
- 少子化ながら多様化する子育てニーズを大切にしつつも、目指す子育てサポートの形を明確にしていくことを望む。
⇒ニーズ調査や市民意識調査の結果も踏まえながら、子育て支援のあり方について今後も検討してまいります。

④ 高齢者への福祉の充実 <<評価：62.5点>>

市民意識調査結果



施策成果指標



成果指標の妥当性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		2	2	3	3	3	2
市民委員意見	成果指標の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・妥当と考える。 ・妥当である。 					
	目標値の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・目標設定が低いように思う。 ・目標設定の根拠が分かりにくい。 ・高齢者が安心して生活できると感じている市民の割合（市民意識調査）の目標値 21%は低すぎる。 					
事業構成の妥当性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2	2	3	3
市民委員意見	事業は施策の成果を上げるのに適しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・よくやられているのではと思う。 ・3年後、5年後も変化や改善点を見つけることができるのか。 ・一般的な事業は適している。 					
施策の有効性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		2	2	3	2	2	2
市民委員意見	目標値の設定は妥当か	特に意見なし					
	指標分析は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・分析によって得られる情報がどれだけの不明。 ・評価が通り一遍で説得力に欠ける。 					
進行年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2	2	3	2
市民委員意見	課題を把握しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・把握はしていると思う。 ・把握している。 					
	課題解決に向けての取組は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・「日常生活支援」をもっと具体的に進めたらどうか。 ・認知症初期集中支援チームはとても良いと思う。 					
翌年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	3	2	3	2
市民委員意見	今後の取組は総合計画の目標とする姿に向かっているか	<ul style="list-style-type: none"> ・向かおうとはしていると思う。 ・方向性は良い。 					
	取組は市民ニーズをとらえているか	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の方々がどう過ごしていきたいのかを把握する必要がある。 ・高齢者が安心して生活できると感じている市民の割合（市民意識調査）が 23%という結果で、ニーズを捉えていると言えるのか。 					

市民委員から見た課題

- ・ 寺山地区通院交通費補助事業について、通院に不便な地区は他にもあり、制度改正を検討とあるが、数年来状況が変わっていない。
- ・ 一般介護予防事業で高齢者同士の支え合いの意義は理解できるが、若い世代を巻き込むことも有効ではないか。
- ・ 自身、老人クラブに勧誘されたことがなく、活動内容も知らない。勧誘方法等の実態調査が必要。
- ・ 老人クラブの組織率が目標値に達しないのは、周知が足りず、また会員以外でも事業に参加できることが原因ではないか。
- ・ 成果指標である「高齢者が安心して生活できている市民の割合」の結果についての分析（コメント）が評価シートに表現されていない。何で安心できないのかという分析をしなければ、目指すべき100%を目標値と書けない。
- ・ 公平感に欠ける事業については、よく検討すべき。
- ・ 委託、助成事業が適正に執行されているかを委員が判断する材料を示して欲しい。

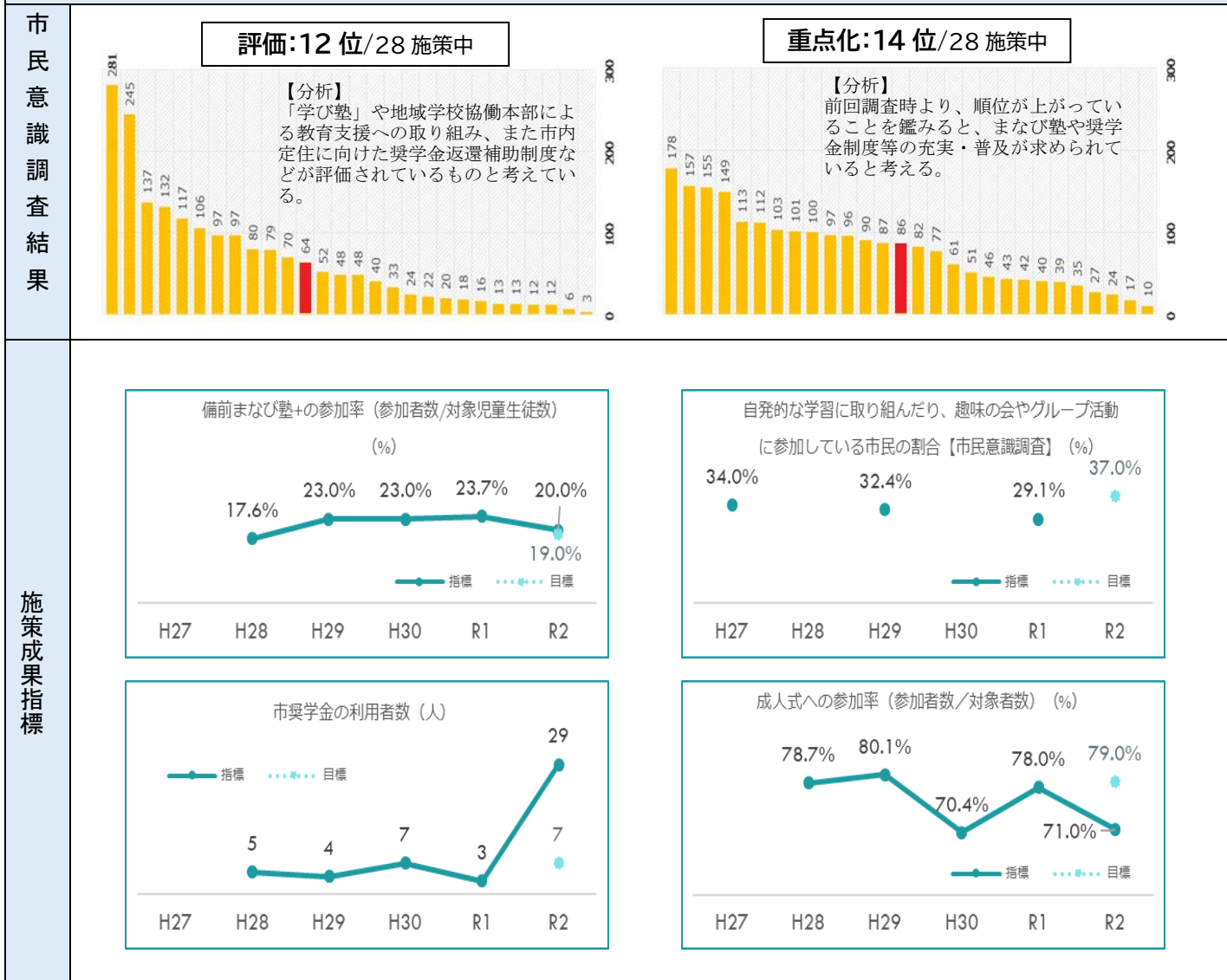
長期的に取り組むべき課題

- ・ 高齢化が進むなか、高齢者の方々がより生きがいを持って過ごせるよう取り組んで欲しい。
- ・ 地域サロン、その他公民館活動に参加する高齢者を老人クラブへ勧誘し、会員を増やしてはどうか。
- ・ 健康寿命の延伸施策の更なる推進。
- ・ 大阪府の堺市は関西大学との連携により座ってできる体操などのメニューを多く用意しているので、連携先を検討し、メニューを増やしてみてもどうか。

委員会後の担当課対応

- 寺山地区通院交通費補助事業について、通院に不便な地区は他にもあり、制度改正を検討とあるが、数年来状況が変わっていない。
⇒ 寺山地区通院交通費補助事業については、利用者がいる間は事業を継続し、利用者がいなくなった時点で廃止の方向で検討していく。
- 一般介護予防事業で高齢者同士の支え合いの意義は理解できるが、若い世代を巻き込むことも有効ではないか。
⇒ 高齢者が地域社会の一員として自分らしく暮らし続けられるよう、多様な社会参加と世代間交流を推進していく。

⑤ 生涯学習の機会充実 <<評価：64.0点>>



成果指標の妥当性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		1	2	2		2	2
市民委員意見	成果指標の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> 生涯学習を幅広く展開するなかで、特定の事業に関する指標で評価することは妥当ではないのではないか。 生涯を通じた学習である以上、年代も幅広く評価していくことが必要。 参加率ありきの目標に見える。 中心的な施策の指標であるため、妥当。 					
	目標値の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> 備前まなび塾+の目標は20% (5人に1人) が妥当か。 目標値が低いのではないかと 					

事業構成の適当性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2		3	3
市民委員意見	事業は施策の成果を上げるのに適しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・公民館、図書館などとの連携もあり、良いと思う。 ・できることは実施しているのではないか。 					
施策の有効性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		2	3	3		3	2
市民委員意見	目標値の設定は妥当か	特に意見なし					
	指標分析は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもを支援することだけを指標として分析することが妥当なのか疑問。 					
進行年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2		3	3
市民委員意見	課題を把握しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・把握されていると思う。 					
	課題解決に向けての取組は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・方向は良いと思う。 					
翌年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		2	3	3		3	3
市民委員意見	今後の取組は総合計画の目標とする姿に向かっているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティアの育成＝生涯学習となるのかどうか疑問。 					
	取組は市民ニーズをとらえているか	<ul style="list-style-type: none"> ・「中学生だっぴ」、「備前まなび塾+」が市民ニーズを捉えているか疑問。 ・ニーズの変化を認識している。 					

市民委員から見た課題	
<ul style="list-style-type: none"> ・より多くの市民に参加いただけるよう、PRにも力を入れるべき。 ・様々な事業を展開しているが、知っている市民が少ない。公民館には多くのグループ活動、講座等の情報があるので、足を向かせる仕掛けが必要ではないか。 ・講座等への参加者が固定化している。参加しない市民をどう取り込んでいくのか。 ・備前まなび塾+は小中学生が対象であるが、高校生、大学生、社会人、またそれらをリタイヤした方など、流れを意識した支援策（学習機会の担保）についての検討が必要ではないか。 	

長期的に取り組むべき課題

- ・「いくつになってもオープンに学べる場所がある」というような市のイメージがあれば良いと思う。
- ・学習のオンライン化。
- ・生涯学習は継続することが大切。学習者にステップアップ（喜び）を実感いただける評価のシステムがあれば良い。
- ・備前市の生涯学習プログラムを進めていった先に、どんな明るい未来が待っているか（自身の未来の姿）というイメージを示す。

委員会後の担当課対応

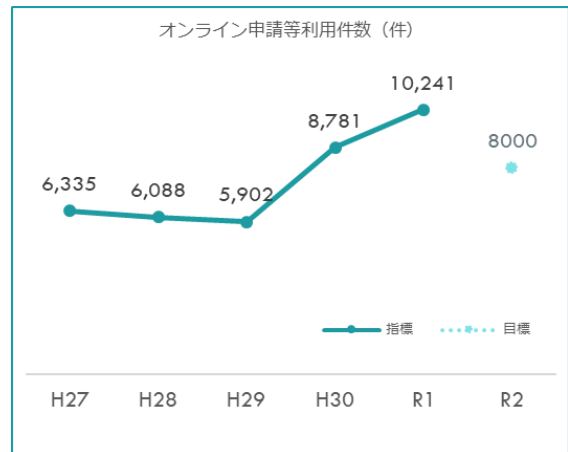
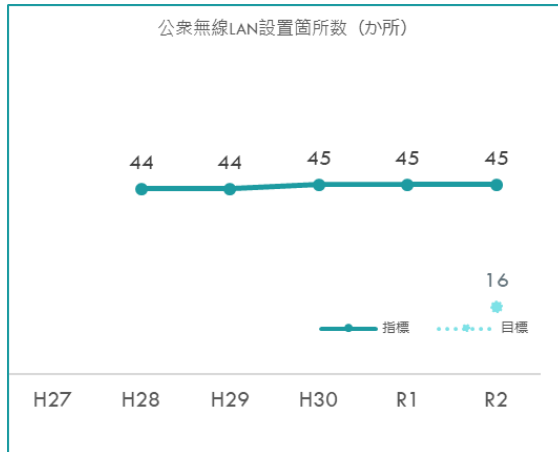
- 生涯学習を幅広く展開するなかで、特定の事業に関する指標で評価することは妥当ではないのではないか。
⇒「まなび塾+の参加率」及び「成人式への参加率」は対象者が限定的であり、対象人数以上の事業効果は望めないため、まなび塾+については地域ボランティアの参加数などを含めた指標への変更、また成人式の参加率については、施策効果の把握が期待できる指標への変更を検討する。
- 講座等への参加者が固定化している。参加しない市民をどう取り込んでいくのか。
⇒年代別のニーズを調査し、実施する講座内容及びそれぞれの年代に合った広報活動についても検討していく。

⑥ 地域情報化の推進 ≪評価：70.0点≫

市民意識調査結果

令和3年度市民意識調査は新（第3次）総合計画の体系により実施したためデータなし

施策成果指標



成果指標の妥当性

評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2		3	2
市民委員意見	成果指標の設定は妥当か	<ul style="list-style-type: none"> ・ 現段階では一つの良い指標なのではないかと思う。 ・ 公衆無線 LAN 設置箇所数は、いつか飽和状態となることが予想されるため、SNS 登録者数等を指標とする方が妥当ではないか。 ・ 他の指標への変更や追加の検討が必要ではないか。 					
	目標値の設定は妥当か	特に意見なし					

事業構成の妥当性

評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		4	3	2		3	2
市民委員意見	事業は施策の成果を上げるのに適しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・ とてもよく考えられていると思う。 ・ 市民生活にどうつながるのが不明。 ・ 指標との関連性が不明。 ・ 課題として触れられている「オープンデータの公開」についての取組の必要性は？ 					

施策の有効性							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	2		3	3
市民委員意見	目標値の設定は妥当か	特に意見なし					
	指標分析は妥当か	・妥当と考える。					
進行年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		3	3	3		3	3
市民委員意見	課題を把握しているか	<ul style="list-style-type: none"> ・オンライン申請が普及した後、サーバーダウンなどのトラブル発生時の対応策が必要。 ・重要な施策であるが、市民委員からの質問が少ないということが問題。（市民への説明、周知不足） 					
	課題解決に向けての取組は妥当か	・市民と共にある情報化であって欲しい。					
翌年度の取組							
評価採点		A委員	B委員	C委員	D委員	E委員	F委員
		4	3	2		3	2
市民委員意見	今後の取組は総合計画の目標とする姿に向かっているか	特に意見なし					
	取組は市民ニーズをとらえているか	<ul style="list-style-type: none"> ・市の情報提供ツールである「びぜんnavi」、「Facebook」、「LINE」などを利用中の市民に対してアンケート調査を実施し、ニーズ等に合った活用を検討すべき。 					

市民委員から見た課題

- ・評価シートの記載内容は専門用語が多く、難しい。
- ・びぜんnaviでの情報発信について、仕方ない部分もあるが、コロナ関連の情報に偏り過ぎている。
- ・情報化等について理解している人、理解できない人との差が大きいため、その差を埋める方策の検討と分かりやすい周知方法が必要。
- ・インターネットが使えない方への対応。
- ・高齢者に対するの説明が不足している。
- ・高齢者はホームページを見ないので、広報の方法検討とデジタル化の将来像などイメージできる情報を出すべき。
- ・デジタル化は分散している情報を集中化する動きであることから、常にリスクを念頭に進めることが市民サービスとなる。

長期的に取り組むべき課題

- ・今後、高齢化が進むなか、どう高齢者の方と取り組んでいくか。（どうやって理解を深めるか）
- ・高齢者が便利と感じなければならない。市民が利便性を感じられるように進めるべき。
- ・デジタル化を進めていくにあたり、便利さの裏に影響を受ける分野がある。それらへの考慮と対策も必要。

委員会後の担当課対応

●課題として触れられている「オープンデータの公開」についての取組の必要性は？

⇒現在、オープンデータの活用等はできていない。岡山県に前向きな動きがあるので、動向を注視しながら遅れをとらないよう努める。

●高齢者が便利と感じなければならない。市民が利便性を感じられるように進めるべき。

⇒デジタルやインターネットに疎遠となりがちな高齢者も取り残さないよう、市民に安心感を与えながら、備前市のデジタル化を進めるよう備前市スマート自治体戦略（仮称）の策定に取り組みたい。また実行に当たっては、「利用者目線」を第一に考え、計画的にデジタル化を推進したい。

●市の情報提供ツールである「びぜんnavi」、「Facebook」、「LINE」などを利用中の市民に対してアンケート調査を実施し、ニーズ等に合った活用を検討するべき。

⇒市ホームページの公式SNS取りまとめページに、ご意見やご要望などを受け付ける場所を分かりやすく表示し、市民ニーズの把握、改善に努める。

市民委員による意見まとめ

委員の意見についてまとめ、次年度以降の行政評価等にあたり、留意する点とする。

【成果指標の妥当性】

- ・ 特定の事業に関する指標が設定されている。施策効果の把握が期待できる指標を設定すべき。
- ・ 目標設定の根拠が分かりにくい。
- ・ 実績を踏まえた目標となっているのではないか。あくまで目標なので、適切に設定すべき。

【事業構成の妥当性】

- ・ 取組内容の課題が把握されていない。判断理由や取組内容が抽象的で判断ができない。
- ・ 新しく取り組む姿勢が感じられない。
- ・ 関連部門との連携がない。
- ・ 前例踏襲ではなく、市民目線に立ち、目標や目的を設定し、進めるべき。
- ・ 市民向け、外部向けのメリハリをつけて実施することで効果が出やすく、評価もしやすくなるのではないか。

【施策の有効性】

- ・ 指標分析によって成果があるのか、ないのか。また改善、見直しが必要なのが分かりにくい。
- ・ 成果指標未達成の理由が不明。
- ・ 評価が通り一遍で説得力に欠ける。

【行政評価システムの改善点】

- ・ 全体的な方向性を幹とすれば事業（取組）が枝となる。現在の評価では一つ一つは理解できるが、全体として何の役に立っているのかが見えづらく、評価がしにくい。
- ・ 成果指標の分析コメントが評価シートに無いのは疑問。

4 総括

総括（備前市行政評価市民委員会委員長）

まず、「3 評価採点結果」の「(1) 評価 5 項目の点数化」について、施策「地域情報化の推進」以外の 4 施策では、59 点から 65.8 点と 7 点程度の幅しかなく、いずれも「よく頑張っている」との評価となっている。また、施策「地域情報化の推進」については、委員からの意見、課題等もあまりなく、70 点と頭一つ高い評価になっている。しかし、「高齢者に対しての説明が不足」等の意見があったように、少なくとも現委員にとって分かりにくい施策であることが高い評価につながった可能性もあり、高評価を真に受けてよいのか、といった懸念がある。

評価項目別に見ても、施策「生涯学習の機会充実」の評価項目「成果指標の妥当性」を除き、すべての施策、すべての評価項目で同程度の評価結果になっている。このことから、対象とした施策については、課題はあるものの「概ね良好」と判断できる。施策「生涯学習の機会充実」の評価項目「成果指標の妥当性」については、生涯学習という長期間で多岐にわたる施策にもかかわらず、特定の事業の比較的短期の数値目標になっているという点が問題視されており、次期総合計画でも同様の施策を継続する場合は是非改訂すべき項目と言える。

次に、同「(2) 各施策の評価結果とその対応」について、多くの意見、多くの課題が提示されているが、次期総合計画に反映すべき項目があがっている。精査の上、可能な範囲で反映をご検討いただきたい。これらに共通している観点としては、「周知・PR 不足」、「外部委託、助成に関する情報不足」、「前例踏襲」があげられる。

「周知・PR 不足」はすべての施策について指摘されており、施策実施に直接係るもの以外にも、成果の PR 不足が指摘されている。これは、市役所の関係者が頑張っているにもかかわらず、それが市民に伝えられていないことを意味することから、職員の意欲向上の観点からも重要と思われる。また、実際に周知や PR を行う上では、その内容や対象に応じて適したメディアや方法を選択する必要があることも指摘されている。「外部委託、助成に関する情報不足」については、数年前から「必要十分な監査を行っているのか？」という指摘があるにもかかわらず、少なくとも本委員会への情報提示が不十分であったことに起因しているため、可能な範囲での情報提示をお願いしたい。「前例踏襲」については、評価理由が、連続年度間でほとんど変わっていない施策や項目が散見されることから指摘されている。この中には、評点が変わっているにもかかわらず理由が同じ場合もあり、検討をお願いしたい。

最後に、評価対象のテーマの選出基準について述べる。「2 外部評価（委員会評価）の評価対象施策」の記述のとおり、これまで評価対象の状況を勘案しつつも、各委員の希望を優先して選出している。しかし、施策の中には、評価される市側が「是非市民委員からの意見がほしい」、「該当年度の目玉の施策であり是非評価してほしい」、「大きな成果が上がったのでアピールしたい」という施策も少なからずあるものと思われる。したがって、6 施策中 1～2 施策程度は、市側が評価を希望する施策であってもよいのではないかと思われる。ご検討をお願いしたい。

岡山県立大学

教授 佐藤 洋一郎